第17回新宿区小学生百人一首かるた大会 試合方法等

しあいほうほう

試合方 法

とうじつ く あ ちゅうせん たい こじんせん しあい おこな

- (1) 当日、組み合わせ抽選による1対1の個人戦で4試合を行う。
- ぶ ねんせい ぶ ねんせい ない たいせん もう こ じょうきょう (2) 1部 (1~3年生)、2部 (4~6年生) 内の対戦とする。ただし、<u>申し込み状 況 に</u> ねんせい さんかぶもん ぶ ばあいより3年生の参加部門を2部とする場合がある。
- さんかしゃ きすう ばあい ふせんしょう じどう せんてい しゅさいしゃ おこな (3) 参加者が奇数の場合、不戦勝の児童がでるため、その選定は主催者が行う。
- ふせんしょう ばあい しょう(4) 不戦勝の場合、1勝とする。
- ごうけいか すう さいゆうせん ごうけいか すう どうい ばあい じゅんい けってい (5) 順位の決定については、合計勝ち数を最優先とする。合計勝ち数が同位の場合 ごうけい しあい かくとく へいきんまいすう しょうすうてんだい い おお じゅん じゅんい は、合計4試合で獲得した平均枚数(小数点第2位)が多い順に順位を けってい ふせんしょう しあい へいきんまいすう たいしょう ふせんしょう のぞ ほか決 定する。なお、不戦勝の試合は平均枚数の対象とせず、不戦勝を除いた他 へいきんまいすう じゅんい けってい い い けってい たいせんきろく の対戦記録をもとにした平均枚数で順位を決定する。1位~3位を決定する際に どうい せんしゅ か すう かくとくまいすう ばあい じゅんいけっていせん じっし 勝ち数・獲得枚数ともに同位の選手がいた場合は順位決定戦を実施する。
- かくぶ い い もの ひょうしょう おこな (6) 各部1位~3位の者へは 表 彰 を 行 う。

ルール

- ごしょくひゃくにんいっしゅ しよう かくしあい まい おこな (1) 「五色百人一首」を使用し、各試合20枚で行う。
- こんたいかい しょう いろき しあい いろっぎ とお (2) 今 大 会 ではあらかじめ使用するかるたの 色 を決めておく。試合ごとの 色 は 次 の 通 り。

だい しあい きいろ だい しあい あお だい しあい だい しあい みどり 第 1 試合: 黄色、第 2 試合: 青、第 3 試合: ピンク、第 4 試合: \boldsymbol{k}

じゅんいけっていせん じっし ばあい (順位決定戦を実施する場合:オレンジ)

- - きょうかいせん した ふだ ふだ はな なら とききょうかいせん る。 境 界 線の下に、札と札を2センチくらい離して並べる。この時 境 界 線の

よこはば だ じょうだん げだん あいだ 横幅をはみ出してはならない。 上段と下段の間も2センチくらいあける。

しあい お さいしょ なら ふだ いち うご その試合が終わるまで、最初に並べた札の位置を動かさない。

- あんきじかん もう ぜんたい なら お かいし (4) 暗記時間は設けない。全体が並べ終わったら開始する。
- あいて ふだ と (5) 歌が読まれだしたら、わかったところで取ってよい。相手の札も取ってよい。払ったり、

あいて と ゆび ちょくせつよ 押し出したりすると相手の取りになる。手のひらか指で直接読まれた札を押さえて取る。

あいて じんち ふだ こと ふだ ふ (6) 自分の陣地でも、相手の陣地でも読まれた札と異なる札に触れるとお手つきとなり、相手

と りょうほう て ばあい さき ただ ふだ と ひと と の取りとなる。 両 方 がお手つきをした場合は、先に正しい札を取った人の取りになる。

かくじと ふだ かぞ まいすう しんぱん まいめ よ お (7) 19 枚を空札なしで読む。19枚目を読み終わったら、各自取った札を数え、枚数を審判 に伝える。

ちゅういじこう

注 意事項

- せいざ らく ふくそう さんか (1) 正座しやすい楽な服装で参加する。ジャージ可。
- けが (2) 怪我などがないように、爪を切ってくる。

- は はじ こえ だ おと た うご (3) 読みが始まったら声を出したり、音を立てたり、動いたりしない。
- まえ て かこ うた だい おん りょうて て ふだ (4) 歌が読まれる前に手で囲ってはいけない。歌の第1音までは、両手の手のひらを札の げだん した たたみ 下段より下で畳 につけておく。

かって せき た

(5) 合図があるまで勝手に席を立たない。

【問合せ】

公益財団法人新宿未来創造財団 地域・子ども部 子ども支援課 新宿区小学生百人一首かるた大会担当 電話:03 - 3232 - 5122